

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	外国人意識調査事業	会計	一般会計	事業No.	80	施策順No.	25-003
事業種別	政策・その他	予算科目	O予算事業				
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり	課等名	男女共同参画課				
施策	25 共に歩む社会づくりの推進	事業期間	開始	21	終了	22	

1 事業の目的

事業の目的 は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象 誰、何に 事業を どう変えるか	飯田市内に住む外国籍市民							A:十分達成した。 B:どちらかといえば達成した。 C:どちらかといえばできていない。 D:ほとんど達成できていない。
		具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図 事業を どう変えるか	飯田市の外国籍市民数(H22.4.1)(人)				2549		目標達成度 A	
		日本人市民と外国籍市民の、より良好な共生社会の実現							
		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 目標	22年度 実績	23年度 目標	
		市等開催のイベント等への外国籍市民の参加人数				450	490		
		22年度の目標達成度に対する振り返り 【政策的事業のみ評価】	外国籍市民のイベント等への参加数が目標を超えており、十分達成したと考える。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度 (仕組み)説明	事業内容	名称	活動量・単位
	1 外国籍市民に対して意識調査を実施する。(単年度事業) ・飯田市に在住する18歳以上の外国籍市民または日本国籍を取得した人に対して意識調査を実施する。(単年度事業) ・調査方法 飯田国際交流推進協会の構成団体や相談窓口利用者等を通じて配布した。 ・調査期間 平成23年2月～平成23年3月 ・調査項目 [多文化共生に関する外国籍市民意識調査] 約19項目	1 調査配布数 2 調査回収数	1 432枚 2 286枚
22年度 事業内容	予定なし		
23年度 実施計画	予定なし		

3 事業コスト

事業費	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金 県支出金 起債 その他				
一般財源	0	0	0		
計 (A)	0	0	0		
正規職員所要時間 臨時職員等所要時間 人件費計 (B)					
トータルコスト A+B		0			

4 事業に対する市民や議会の意見

・平成19年第3回定例会において、「多文化共生推進プラン」を策定したらどうかという意見が出されている。今後は、多文化共生社会推進基本方針の進捗状況を勘査した上で、プランの策定を進めていく必要がある。
・平成20年度総務文教委員会で、外国人の意識調査も必要であるとの意見あり。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	相互理解による人権尊重 ①お互いの文化や考え方の違いを理解し、尊重し合う。 ②市民一人ひとりが、その能力を発揮し、安心して生活することができる。	施策の成果指標又はムース指標	日常生活の中で人権を尊重している人の割合
		日常生活の中で人権尊重意識を持っている人の割合		
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	外国籍市民の生活上の現状や課題を把握し今後の課題解決に活用する。また、「飯田市多文化共生社会推進基本方針」に基づく実施計画の策定に役立てる。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	現状や課題が明確になるよう調査内容を検討した。また、関係団体や相談窓口、ハローワーク窓口、日本語教室、外国人を多く雇用する企業等に配布し、回収率をあげる工夫した。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	関係団体や相談窓口、ハローワーク窓口、日本語教室、外国人を多く雇用する企業等に配布し、回収率をあげる工夫した。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	課題を把握し、多文化共生社会の実現に向けて推進していく上で、市が主体となり関ることは適切である。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①飯田国際交流推進協会や外国人コミュニティ、日本語教室などが配布・回収に協力することにより、意識を高めることができた。 ②調査内容を関係団体に相談しながら作成し、できるだけ協力いただくよう配慮した。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	ここ数年の社会情勢の悪化に伴う緊急的な課題に対して、各種懇談会を実施しながら実態把握をし、課題解決のための事業を実施してきた。医療・教育・就労などの生活に関する経常的な課題に対して、解決に向けての具体的な計画策定にこの結果をいかしていく必要がある。 東日本大震災と重なったため、当初予定していた数の配布・回収ができなかった。		
	後期に向けた課題			

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input checked="" type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
--	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------